

第2回「鳴門病院を良くする会」における主な意見・提言等について

○救急医療体制の強化

- ・4月から救急科が設置されたことで、どの救急隊、救命士に聞いても、今まで以上に体制が充実・強化されていると、誰もが言っている。
- ・ベッドの稼働率が7割程度であるが、これで十分に救急に対応していけるのか、少し心配している。

○津波等災害対応の強化

- ・災害医療を考えると、浸水地域であるにもかかわらず、鳴門病院にヘリポートが無いのは、一番の問題だと思う。絶対、最低限必要だと思うので、ヘリポートの整備をお願いしたい。

○小児・周産期医療の充実

- ・心肺停止等の重症の場合における小児救急対応が出来ていない。
現状は県立中央病院など徳島市内等の病院まで搬送しているため、時間を要している。
N I C Uとまでは言わないが、まずは鳴門病院で診察をして、症状が安定すれば、転院搬送をする等、この分野での充実を図って頂きたい。
- ・産婦人科のスタッフ、医師や看護師は皆さん大変素晴らしく、良い評判を聞いている。
人口減少が続く中、安心して子どもが産める病院が近くにあることを、もっと広くアピール、P Rしていただきたい。そうすることにより、市内の私立の病院へ行く方もいるが、安心して鳴門病院を選択して頂けるのではないかな。
- ・現在、鳴門市内でお産ができるのは鳴門病院だけであり、絶対、その機能を維持していくことが必要である。

○地域包括ケアシステムへの貢献

- ・P E T－C Tやリニアックといった高性能な医療機器が導入され、利便性が向上し、整形外科領域での手術件数も増加しており、これは良いことだと思う。しかし一方で、県内外から患者さんが多く集まり、地域からの紹介が難しくなっていると感じる。
以前も、紹介で予約を取ろうとしたが、1ヶ月以上先でないと空いていないと言われた。小児科、内科、脳外科など非常に頑張っているところであるが、できれば1週間を目処に受診できる仕組みを作っていただければ助かる。
- ・板野郡医師会としては、在宅医療に力を入れて取り組んできているが、バックベッドがなければならない。現在、西方面は東徳島医療センターにお願いしているが、東方面の北島町や松茂町の住民は鳴門病院を希望されることも多いので、これからも、バックベッド機能を担っていただきたい。

○特徴のある医療の推進と広報PR活動の強化

- ・研修医においては、救急をしっかり勉強したいため、それで病院を選ぶことも多い。鳴門病院が、数多くの重症の救急患者に対応している、県内でも有数の病院であること等を是非、アピールして欲しい。
- ・板野郡の人口から見ると、鳴門病院の利用率が低いように感じる。鳴門病院の魅力、特色を活かし、北岸地域における医療の東西移動の流れをもっと作れたらと思う。また、板野郡も含めた地域の病院なんだということを、板野郡の住民に対して、強くアピールを行い、浸透度を深めて欲しい。
- ・イベントや会合を開催するにあたり、鳴門病院の先生に講師で来て頂く機会があるが、本当に良い先生ばかりである。こんなに良い先生が沢山いるんだということ等、口コミで広がるよう、ケーブルテレビを含めた広報活動に力を入れて頂きたい。

○次代を担う人材の育成

- ・看護師養成において、今後、どのように県立総合看護学校との連携の強化を図っていくのか。

○処遇の改善と働き方改革への対応

- ・働き方改革が推進される中、やはり、元気で生き生きと働くことの出来る職場でないと活気も出ないと思う。

○その他

- ・鳴門病院は鳴門市にとって本当に最後の砦なので、地域中核病院として、その役割を果たしていただくことが大切である。
- ・総合メディカルゾーンにおける北部ブランチ病院として機能を発揮し、患者や医療スタッフの行き来だけでなく、得意とする部門を活用した教育など、交流が進んでいければと思う。
- ・第3期中期目標（素案）については、非常にしっかり書き込めているので、そのとおり進めてもらいたい。
- ・全ての鳴門市民が、安心して生活できるような病院であって欲しいと願っている。
- ・鳴門市民が誇れるような、いい病院であって欲しい。